

仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 平成29年7月27日(木) 午後3時00分

開催場所 角館庁舎 西側庁舎2階 第4会議室

構 成 員

仙北市長	門 脇 光 浩
仙北市教育委員会委員長	安 部 哲 男
仙北市教育委員会委員長職務代理者	河 原 田 修
仙北市教育委員会委員	佐久間 健 一
仙北市教育委員会委員	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員・教育長	熊 谷 徹

出 席 者

(市長部局)

総務部総務課主事	小 林 佳 織
----------	---------

(教育委員会)

教育部長	渡 辺 久 信
教育次長兼スポーツ振興課長	高 橋 和 宏
教育次長	茂 木 雅 宏
教育次長	浦 山 英一郎
教育総務課長	朝 水 勝 巳
文化財課長	富 木 弘 一

案 件

- (1) 仙北市学校適正配置について
- (2) 思い出の潟分校と田沢湖クニマス未来館の活用について
- (3) 曳山公開展示施設の整備について

小林主事

ただいまから、平成29年度第1回目の仙北市総合教育会議を開会いたします。本来であれば、市長部局から運藤総務部長も出席予定でしたが、災害対応で待機のため、欠席になります。それでは、はじめに、門脇市長から挨拶をお願いします。

門脇市長

皆さまには、本当にお忙しい中、また、災害対応で様々な対策をしていただいているという真っ直中でありますけれども、このように仙北市総合教育会議にご参加いただき、心から感謝しています。ありがとうございます。

運藤総務部長の話がありましたけれども、災害対応ということでもあります。

少しだけ、仙北市総合教育会議ということではないですが、被災をしている真っ直中から今日まで、様々な会議で状況をお話させていただいておりますので、少しお時間をいただいておりますので、現状等をお伝えしたいと思います。

7月22日、23日の大雨による水害であります。仙北市は、立地状況からして川上にあり、中山間地域ということもあって、一気に水位が上がって一気に下がるというような特性が、今回もしっかりと出ております。そのことありまして、それまでの流域の下方の大仙市が大変な状況だということで、お見舞いを申し上げる訳であります。仙北市は、今回初めてでありますけれども、全市に避難勧告を発令させていただきました。これは、大変なお叱りをたくさんいただいております。「全市一斉の避難勧告だとすると、私たちはどこに逃げればいいのか」というようなお話もありましたけれども、「まず、ご自身

の身の安全を確保してください、ということです」と回答させていただいております。また、前後して、避難指示というものを出させていただきました。これは、水位の上昇と土壌水量の関係で、50年に一度の大きな被害や災害が発生する可能性があるということで、秋田地方気象台の方からホットラインでそういう話がありましたので、いち早く対応したいということで、土砂災害警報という段階で避難指示をさせていただきました。結果として、避難勧告と避難指示合わせて、180名程度の皆さんが避難所に避難しております。昨日まで、福祉避難ということで、協定をさせていただいた市内の各福祉施設の方に避難をしている方々がいらっしゃいましたけれども、今日現在で、皆さま自宅へ帰られております。ということで、今避難所には、避難している方はいらっしゃらないですけれども、ただ、ご家族、もしくは、ご親族のアパートや離れている家に避難している方が数名おります。今被災していて、とてもこの家には住めないという家が何軒かありまして、その住居対策を行っております。被災後の状況を把握するために、市の特別調査チームを派遣させていただいて、各被災地の全てを回らせていただいたと。これは、罹災証明書の発行に必要な調査ということで、市民の皆さまにご協力をいただいているということでもあります。前後して、衛生処理チームが消毒作業を行っていて、それが昨日の段階で終わっております。今日まだ継続して行っているのは、ゴミ処理チームであります。流木、様々なゴミ等の流出があった物に対して、市の方で準備したトラックに積み上げて、環境保全センターに運ぶというような作業をしております。まだ続いております。土曜日、日曜日は、基本的に環境保全センターは、お休みになっているのですけれども、今週の土日でも無料でお受けするという体制にしております。土、日でなければ手が回らないという方もたくさんおりますので、対応させていただこうと思います。本日、午前中に議会議員の皆さまと仙北市議会議員全員協議会が開催されておまして、議会は

議会で、3班に分かれて被災地の視察、調査を行っております。その視察、調査の報告と市がこれまで蓄積してきた被災状況の突合を先程まで行っておりました。突合させていただいて漏れないかということで、議会と行政が共同作業で先程まで掛かって、緊急的にと申しますのは、この8月4日、5日、6日くらいを見積もっておりますけれども、台風5号の襲来を大変恐れています。今週の土、日も雨が降る状況は推測しておりますけれども、その後に台風が上陸するという想定の下で、線状降水帯というものがまた発生する可能性が高いというふうに考えておまして、そうなると同じ状況になるということで、それを回避するために、河川等の水位が上がった場合でも、特に入見内川の関係ですけれども、対応を緊急的にこの一週間で行いたいと思います。その対応、協議がまもなく整う段階だと思っております。今回幸いしたのは、市民の方々の防災意識が非常に高かったことです。以前の土石流災害で亡くなられた方々のことを思うと、大変これは教訓と言うにはあまりにも痛ましい事故でありましたけれども、そういうことがあって、皆さま方ご自身で自分の命を守るという対応をしっかりとさせていただいたことで、今回仙北市での市民の方々が亡くなったという事案がなかったこと、これは本当に皆さまに御礼を申し上げなければいけないことであったと思います。この後も対応を継続して参ります。臨時議会、たくさんの予算等の対応も必要になってきますので、これについても午前中の仙北市議会議員全員協議会で、遠慮しないで住民の安心、安全を確保しなさいというお話をいただきましたので、対応したいと思っております。何とか、皆さま方にもご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今日は、資料がいくつかありますけれども、仙北市学校適正配置推進計画についてということと、7月1日にオープンした田沢湖クニマス未来館、皆さまにご覧になっていただき大変ありがとうございます。思い出の潟分校と連携した事業等の進め

方であったり、できるだけ子どもたちに見ていただきたいというPR作戦であったりということを、皆さま方にご議論、ご協議いただきたいなというふうに思っております。また、ここにあることの他にも総合体育館のお話でありますとか、たくさんの方が皆さま方の中でも、まだ解決、方向性に不安を感じている事案がたくさんあると思いますので、それについても何とか皆さま方からご意見をいただければありがたいと思っております。どうか、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

小林主事

続きますして、安部教育委員会委員長からあいさつをお願いします。

安部教育委員会
委員長

このたびの水害につきましては、本当に心からお見舞いを申し上げます。繰り返し市当局から、私も、避難情報とか様々なメールをいただいていたが、私生保内ですから、ほとんどそういう危機感がないままに過ごしておりまして、もっと全市的な視野でいなければなかったなと強い反省をしております。それでも、それぞれの学校の被害が思った程でもなくて本当に良かったです。教育委員会職員の皆さんも大変ご難儀をおかけし、避難対策等で頑張ってくれたということについて、先程の定例教育委員会で御礼を申し上げたところです。

あと1つは、この後の話にも出てくるとは思いますけれども、7月4日から19日にかけて、教育委員会では、教育委員が5回にわたって、小中学校、あるいは、図書館、給食センター等の地域の教育委員会関係施設の訪問をさせていただいております。各学校を訪問した際には、各校長先生から、学校の経営内容、指針、課題等をお聞きして、それに対し私たちが要望、助言等をさせていただいております。併せて、各学校の授業を全部見させていただきまして、それぞれの授業に関しては、それぞれの学校の個性はあるが、学校教育としては一定の

方向を向いていて問題ないなど、よく頑張っているし、今後に期待ができるなどという感触を強く得てホッとしています。先程の定例教育委員会でも、いじめや不登校の報告がありまして、いじめについては、特に集団で行ういじめ、暗黙の内に行ういじめ、そういうようないじめの事案もありましたので、特に集団で行っているいじめについては、十分に注意をして、教育委員会、北浦教育文化研究所でも、各学校に十分注意喚起してもらいたいというお願いをしたところであります。

今日は、よろしくお願いたします。

小林主事

ありがとうございます。続きまして、協議案件に入ります。ここからは、会議の主催者であります、市長から進行をお願いします。

門脇市長

はい。それでは、1点目の協議案件でありますけれども、「仙北市学校適正配置について」ということではありますが、これについて、皆さまからご協議いただきたいと思っております。説明をお願いします。

浦山教育次長

資料1をご覧ください。「仙北市学校適正配置推進計画(案)」でございます。前の仙北市総合教育会議で基本方針については、ご協議いただきましたけれども、その後、4月の総務文教常任委員会分科会におきまして、委員の方々からご助言をいただきましたして若干修正をいたしました。基本方針について読みます。(1)小学校、継続して複式学級が発生し、かつ全校児童数が50人を下回ることが予想される場合。(2)中学校、1学年1学級の学校で、継続して全ての学年の人数が15人を下回り、ここに「かつ」という文言がありましたけれども必要ないだろうという指摘でした。全校生徒数が45人を下回ると予想される場合。(3)上記(1)、(2)に該当しない場合であっても、①近隣の学校への就学指定校変更を希望する傾向が顕

著に表れてきた場合。②がご指摘をいただきまして追加した部分でございます。教職員の定数や加配、兼任・兼務等に関する国や県の動向の変化により、学校の指導体制が十分に整わない状況になることが予想される場合。こちらの方を追加させていただきました。

次に、5月1日をもちまして、今年度の在籍児童生徒数が確定いたしました。それを基にしますと、学校適正配置の検討対象校が2校となります。1校目の対象となる理由としましては、(1)の全校児童数が50人を下回るという要件でございます。今年度42人、これがずっと減っていきまして、平成32年には20人台に入ってしまう。それから、複式学級が今年度は1ですけれども、これが増加していきまして、平成32年には、複式が3になることが予想されます。このような理由からでございます。2校目の理由としては、複式学級は中学校ですので8人という基準ですので合致はいたしませんけれども、(2)の1学年1学級の学校で、継続して全ての学年の人数が15人を下回り、全校生徒数が45人を下回ると予想される場合に合致するということでございます。今年度32人、それが平成33年には23人、平成35年には20人というような推移が予測されます。また、参考ですけれども、部活動の状況でございます。上記2校目には、野球部、男子卓球部、女子バレー部、吹奏楽部がございます。野球部につきましては、現在6人でございます。総体までは、豊成との合同チームを組んでおりました。この後3年生が抜けますので、1・2年生で3人、新人チームからは隣の学校、1年生が5人、2年生が6人と11人おりますけれども、との合同チームで活動する予定でございます。なお、卓球、バレーにつきましては、単独チームで今も行っております。吹奏楽については、5人ということで、大会コンクール等については、隣の学校と合同で出場している状況であると。バドミントン1名につきましては、スポ少ですのでこれはまた別枠かと思っております。2枚目に入らせていただきま

す。もし、この検討対象校について、このまま進める場合のスケジュールでございます。本日、7月27日が仙北市総合教育会議でございます。そして、8月4日に仙北市総務文教常任委員会協議会がございますので、本日承認されれば、この協議決定内容を仙北市総務文教常任委員会協議会の方に報告いたしまして、その後のスケジュールですけれども、最短で10月下旬が限界かなと考えております。9月は、マラソン等様々な行事がございます。10月の上旬には選挙もございますので、10月下旬が一番早くてできるかなと思います。第1回目を行いまして、内容につきましては、対象校の地区住民・保護者対象に意見交換会を行うと。12月に第2回目の意見交換会をして、平成30年2月には、第3回目の意見交換会をして、ある程度の方向性を見出していきたいなというふうに考えております。また、ある程度の方向性が定まった際には、相手先の学校についても説明が必要だろうということで、(4)、(5)の意見交換会についても、もしある程度の方向性が見通せた場合には、必要になってくるであろうというふうに考えているところでございます。こちらの仙北市学校適正配置推進計画(案)の内容について、それから、この仙北市学校適正配置推進計画(案)でよろしいかどうか、ご検討をよろしく願いいたします。

門脇市長

はい。ありがとうございます。今説明をいただきましたけれども、仙北市学校適正配置推進計画(案)について、皆さま方からまたご意見をいただきたいと思いますけれども、委員長、一人ずつご意見をお聞きする形でよろしいでしょうか。教育委員会で何かお話とかありますか。

安部教育委員会委員長

特に最近はないですけれども、前にいただいた提言書に従って進めていくということは確認しております。それ以上は、進んでいないはずです。

門脇市長 そうすれば、今の説明で皆さま方から少しご意見をいただければありがたいですけれども。佐久間委員、どうでしょうか。

佐久間委員 基本方針を見させてもらって手直しもしてありますし、5月1日現在の在籍児童生徒数も確定したようですし、ただ、小学校によっては、クラブ活動で次の年に別の学校へ行きたいという子どもさんが出るとか、色んなことが動くと思います。だけれども、この事務局で出された（案）のとおり、私たちが承知しておりますし、本会議の（案）を持って臨んでもらうには、意義もないし、これについて賛成します。

門脇市長 はい。坂本委員いかがでしょうか。

坂本委員 はい。私も先日、これに関しての話し合いを持った時に、教育委員会全体としてのこの方向で進んでいくという、この方針で検討していくということに賛成いたしました。ですから、これには全く意義はありません。個人的に、先日の学校訪問を見ての感想は、やはり小さい学校は小さい学校なりの良いところがあるというところは、十分に分かっております。でも、それによって、友達と切磋琢磨しながら成長していくことが、どこか欠如の部分も出てこないとは言い切れないという心配も感じました。ですから、このまま進めていっていただきたいなと思います。

門脇市長 河原田委員、お願いします。

河原田教育委員会委員長職務代理者 はい。地元の方からすると、やっぱり何とかして学校を残したいという意見は、どうしても残るのかなとは思いますが。ただ、地元の方の意見と保護者の方の意見を丸呑みにすることが、果たして、子どもたちのためになるのかということ考えた場合

に、子どもたちを第一に考えることが必要だというふうに考えると、やっぱり子どもたちにこの状態、少人数で学習させることの最大の理由はあるのかなど。逆に言えば、統合して大きな学校の中で学習するという理由の方が、利益を生むのではないかというようなことを考えると、その方向に進まざるを得ないのではないかなというふうに思います。

門脇市長 はい。教育長、お願いします。

熊谷教育長 はい。これで進めていただければと思います。ただ、決して統合ありきでということではないです。

門脇市長 安部教育委員会委員長、お願いします。

安部教育委員会委員長 はい。私も、仙北市学校適正配置推進計画（案）に賛成なのですけれども、決して統合するのが良いとは思っている訳ではないのですが、しかし、やむを得ずというのが一つと、今、河原田委員がおっしゃいましたように、子どもを第一に考えるといった場合に、子どもの将来までとるかどうかまでの見解は分からないのだけれども、子どもの将来を保障するためには、今のこの少人数の学校では、身につけなければいけない能力が十分に付けにくい状況だと。たしかに、小規模であれば、学力は間違いなく付きます。ただ、その学力というものが本当に学力なのか。本来学力というものは、私は、学校という組織の中で、例えば、AさんとBさん、10人、20人の中でお互いに話し合った中で、AとBの意見が出た中からCという意見に変わってきたと、そこで初めて学習が成立したということになると思うのですけれども、今のままだと、小規模の学校ではどうしてもそのところができないし、知識をより深く伝えることが非常に素晴らしい成果を上げるのだけれども、知識をつくっていくという学校の本来の在り方から言えば、非常に難しいのでは

ないかと。地域のことを考えると非常に申し訳ないという気持ちもあるし、これは市長さんも地域づくりと連動して考えられているとは思いますが、前に、地域づくりと学校を切り離すとは言わなかったけれども、その辺ちょっと考える切り口にしたいと言っていたことも覚えておきまして、そこは私もそのとおりでなと思っております。今のこの具体案、ここがはっきりしないことには、第1回目と第2回目の意見交換会で、何がどう変わって、視点をどうしていくのか、第1回目でこういう状況でどうしたらいいですかという問い合わせが多いと思うのですよ。その次もまた同じことをやってもしょうがないと思うので、そうでないやり方はないものだろうか。今ちょっとそここのところに引っかかりがあります。前にも浦山教育次長に話したけれども、お互いにそここのところがどうしたらいいか分からない、というところで終わっていたのですけれども。第1回目と第2回目の意見交換会は、やはり視点を變えるとかやり方を変えるとかしないと、意味がないのではないかなと。その方向性を決めるのは、これは前から出ておりますが、この仙北市総合教育会議なのか教育委員会で決めることなのか、はっきりしないとどちらもイニシアチブを取りにくいと。これが私の現実の悩みです。

門脇市長

市長という立場からすると、学校適正配置については、教育委員会でしっかりと議論いただくということで、その調整役というか、たたみ役に仙北市総合教育会議がある訳ですけれども、まず、何はともあれ学校教育の守護神と言われている教育委員会で議論いただくことが、何よりも市民の方々には、説得力を付ける大きな力になるのではないかなと思います。仙北市総合教育会議って何？と言われても、多分まだ市民の方々の中々分からないと思います。

安部教育委員

そうすれば、教育委員会で持ったビジョンをこの会議に提示

会委員長 して承認された場合は、それが方向性というふうに考えてもいいわけですね。

門脇市長 仙北市総合教育会議の位置付けとしては、そういう機能を果たすことですね。

安部教育委員 分かりました。

会委員長

門脇市長

行政機関から言うと、今の議論はまさにその通りで、子どもたちを第一に考えた政策は、当然具体化していかなければならないということなのですけれども、できる限り小学校、中学校と上がっていくに従って、距離的な移動とか物理的な環境の変化とか大変になってくる成長期でしょうから、例えば、何が言いたいかと言うと、しっかりと地域を残すというような正当化されているような地域の方々の思いは、若干ありそうだなという気はします。それは懸念している部分でもあります。仙北市学校適正配置推進計画に直接関係するものではないですけれども、周辺の課題のことも勘案していかなければいけないのかなと思っています。

佐久間委員 ちょっとすみません。学校適正配置に関する意見交換会について、「保護者」対象になっておりますけれども、本来は、アンケートは全市民に出したので、最初は「保護者」対象でなく地域全体にして意見を求めないと。

熊谷教育長 「住民・保護者」対象になっています。

佐久間委員 それだといいですけれども。最終的には、保護者に詳しい説明になりますけれども、最初は、「保護者」でなく「地域住民」の方がいいのでは。アンケートは住民に出したものだから。順序としては、住民に対して、地域にある公共施設をなくすこと

についてどうですか、ということを経験してからいかないと、議員の皆さんも地域代表で来ているものでしょうし。保護者も地域住民に入るでしょうから、最初は「保護者」を抜いて、「地域住民」対象の意見交換会でないとうまくないのではないのでしょうか。桧木内の時は、そういう形でやりました。もちろん、上桧木内から学校をなくすことについて、上桧木内地区の団体があるので団体を集めたりして色々なことをしましたけれども。

熊谷教育長 私も色々絡んできましたけれども、保護者中心でいくこともあります。まずは、保護者で、保護者を抑えてから地域住民と。それで、今回は「住民・保護者」にしました。

佐久間委員 そこをうまくやっけていかないと。

安部教育委員会委員長 浦山教育次長、前のはちょっと違っているのですよね。前は、「保護者」との意見交換会になっていましたね。今回は「住民・保護者」に変わっていると。

浦山教育次長 はい。そこも検討していただきたいというところで、それぞれに意見交換会をもった場合に、お互いの意見が噛み合わないまま終わってしまう可能性もあります。そういった場合、両方に来ていただいて、同じ場で、保護者の立場、住民の立場の意見、あるいは、教育委員会の立場、それぞれを交わし合うことによって、それぞれお互いの考えが理解できることもあるだろうというような思いもありまして、まず今回は、「住民・保護者」、全部の方々に一堂に会していただいて、一同の前で説明して、それぞれの立場の考えを出し合って折り合いを付けるような意見交換会にできないものか、というような意図も事務局としてはございました。

佐久間委員 「保護者」となれば、小中だけでなく保育園や幼稚園も入ってきますので、「保護者」をなくして「住民」意見交換会の方が良いと思います。ここの保護者というのは、保育園、幼稚園も含まれますか。

浦山教育次長 まずは、統合対象の学校の保護者と考えています。

佐久間委員 何十年先の学校再編については、今の保育園の人たちも関係してきます。将来を考えれば、当然、今の保育園の人たちの保護者もいれなければいけないと思います。小中今の人たちだけでなく、将来の仙北市の学校再編についてですから。これも、桜木内の時に議論になりました。私も経験しました。その時もそれで、保育園の人たち全部を対象に通知しました。第1回目、第2回目は「住民」対象説明会、第3回目で具体的に「保護者」対象説明会という方法を取りました。ちょっと進め方で気分を害させてしまえばという心配はあります。

門脇市長 佐久間委員のお話のとおり、学校再編は、将来の小学校、中学校の子どもたちを含めて考えていくと、今、保育園の子どもたちを持つ保護者の方々の興味の範疇の中に入っているはずですし、おじいちゃん、おばあちゃんにしても、孫の話だなど思えばこれも大変興味の深い話になるでしょうし、どういうふうな住民説明会の開催が適切なのか。教育長のこれまでのご経験、佐久間委員のこれまでのご経験も含めて、教育委員長、委員の皆さま方のご経験も含めて、子どもたちにとって一番良いと言っていただけのような状況を作るために、もうちょっと検討してみた方がいいかもしれないですね。

佐久間委員 そうしてもらえれば良いですね。

熊谷教育長 そうですね。検討してみます。

門脇市長

はい。それでは、協議案件（１）は、ここまでとさせていただきます。ここで休憩に入ります。

（ 休 憩 ）

門脇市長

それでは、再開します。

協議案件（２）の思い出の潟分校と田沢湖クニマス未来館の活用についてということなのですけれども、皆さま方のところにも資料が入っているかと思うのですが、これは私が説明することです。資料２、思い出の潟分校のパンフレット、田沢湖クニマス未来館のパンフレットは、お持ちでしょうか。資料２ですけれども、ここに書いてあるとおり、市長名、教育長名で、ご観覧についてということでご案内をするということにしております。資料にあるとおり、東北全ての小中学校にこのご案内をさせていただくということで準備するということです。この前確か田沢湖クニマス未来館に来て、そして思い出の潟分校を活用していただいた第１号が、岩手県の軽米中学校でした。県外からも十分そういう魅力があるということで、ご認識いただいているかと思うのですけれども、是非仙北市内、秋田県内等の子どもたちに、何とか早く足を運んでもらえるように私たちも頑張りますけれども、教育委員会も挙げて頑張ってもらえればありがたいなと。これはお願いということになりますけれども、よろしくご検討ください。教育委員長、これについては、このような感じでよろしいでしょうか。

安部教育委員
会委員長

これについて、意見等発言してもよろしいですか。

門脇市長

はい。お願いします。それが目的で提案させていただいておりますので。

安部教育委員
会委員長

私から1つあります。この前ちょうど軽米中学校の子どもが1泊2日でわらび座ゆぼぽに泊まって観劇した後に、思い出の潟分校、田沢湖クニマス未来館へ来てくれました。すごくありがたなことだなと思っていて、子どもたちもすごく熱心に見ていました。非常に良い景色を見せてもらいました。ただ、来て欲しいという努力は大変素晴らしいと思うのですけれども、来てもらった時のサービス、帰った後のサービスがあればいいかなと思います。例えば、一言感想を書いてもらって置いていったら、その感想に対して田沢湖クニマス未来館長名で御礼状を差し上げるとか。そういう個に対するサービス、もっと言えば、個人宛に礼状を出すくらいのサービスというかお御礼の気持ちをやらないと、もう1回来ようという気持ちに中々ならないのではないかな。個人宛で礼状をもらうのと〇〇中学校生徒一同でもらうのでは、全然意味が違うと思います。これは非常に労力もかかるし人もいないところですが、今のままだと1回来て終わりなのではないかな。これは私の夢でもあるのですけれども、心の繋がりというものができて、もう1回田沢湖クニマス未来館を見て、それから思い出の潟分校に行ってみようとか、ここに行けばまた良い思いができるかなとか、そんなこともできるのかなと考えています。そういう発想をしないと長続きしないのではないかなと。

門脇市長

思い出の潟分校も仙北市で管理する公共施設ということに4月からなっておりますし、田沢湖クニマス未来館についても企画政策課が先になって進めたものですので、これは持ち帰って総務部長に、安部教育委員会委員長からこういうご提案があった旨を伝え、至急内部で検討するという方向にしてください。

熊谷教育長

学校って、訪問した後で訪問先から何か送られてくれば、それに関するコーナーを作ります。例えば、廊下にこういうのが

送られてきたよというような感じで紹介しています。来てもらえてよかったというのが、学校の掲示板等に載っているようなのはすごく良いですね。

富木文化財課
長

学校って、こちらの情報センターや図書館もそうですけれども、その学年でカリキュラムがあって、先生たちは来た印象が良いと、修学旅行なんかもそうですが、3年間はある程度来ていただけます。大体3年サイクルで見直しをかけるそうみたいですけれども。そうすると、その時の対応が良いと、来年また子どもたちの学年が上がる時に年度計画でまた計画してくれますので、そういうやり取りをしていくと、非常に学校にとってのイメージは良くなると思います。こちらの図書館でも、子どもたちが来てくれた時の御礼の葉書とか書いてくれたものは全部貼って、子どもたちに「貼っていますよ、ありがとうございました」と連絡をすると、親御さんとまた図書館に来た時に見ていってくれたりします。施設を見学して、子どもたち一生懸命手紙とか書いてくれてありがたいので、もらったものは全部貼るようにしています。お互いにそういう交流があれば、学校側から御礼のお手紙がきたら、田沢湖クニマス未来館のどこかスペースに貼って、学校へ掲示した写真と御礼状を出したりすると、学校の方でもまた紹介してくれると思います。

高橋教育次長
兼スポーツ振
興課長

田沢湖クニマス未来館の研修ホールとか使うといいと思います。教育の関係で、私も観光課時代に学校とやり取りしたりしたことがあったのですけれども、先生の影響ってかなり大きいです。先生を掴めばその先生がその場所の良さを伝えてくれるし、例えば、その学校から替わっても連れてきてくれたりします。先生が替わるとまた方針が変わってしまうこともあるので、その方向性で視覚的にも伝わるように考えていかなければいけないと思います。

安部教育委員会委員長 私なんかは古いタイプでアナログなのですが、メールとかデジタルな時代の良さもあるのだけれども、アナログの良さも使った方がいいのではないかと思います。

高橋教育次長兼スポーツ振興課長 人と人の絆ってというのは、一番強いと思います。手紙のやり取りをする時も、研修室の壁を使うとかこういう状況で掲示しているというのを伝える必要があると思います。

門脇市長 はい。皆さまから様々な意見をいただきました。安部教育委員会委員長、教育長からも全く同じ意見をいただきました。せっかくですので、委員の皆さまからも何かあれば。河原田委員からお願いします。

河原田教育委員会委員長職務代理者 ちょっと言いにくいことでもあるのですが、冬場にあの辺りに行けるかなというのが1つあります。田沢湖の観光だとかを考えると、田沢湖周遊の中に田沢湖クニマス未来館、思い出の瀧分校といった場合に、アクセスを何とかしたいと。前もちょっと話したのですが、柴倉の門脇木材さんからの道ですね。仙北市だけではできないことだけでも。

門脇市長 国道46号線から湖畔にショートカットする道路ですね。

河原田教育委員会委員長職務代理者 途中の道路に何かあった時にも迂回路になるし。

安部教育委員会委員長 そう、田沢湖には迂回路がないのですよ。この間も、車が燃えた事故があった時も何時間も待たされて、田沢湖を回るしかなかったのです。

河原田教育委員会委員長職務代理者 これは夢なのですが、そこに何とかアクセスができるようになればと思います。国とか県に要望してもらえればな

務代理者 と。

門脇市長 もうすでに要望しています。林道がすでに走っているのですけれども、それを市道化するとか県道、アクセス道にするとか。今まで実は、田沢湖と国道46号線のショートカットでしたけれども、別の拠点ができている訳ですので、また力になる要望書が出せると思います。議員の方からも言われています。

河原田教育委員会委員長職務代理者 多分、皆さん同じことを考えているのではないかと思います。

務代理者

門脇市長 この提案は、改めて、また要望をし直すということにさせていただきます。これについても、担当部の方に持ち帰ってしっかりとお話しします。

佐久間委員 最初は、田沢湖クニマス未来館について、かなり遠いところに建てたなと思いましたが、思い出の潟分校とマッチして大変良いと思います。子どもたちにとっては、田沢湖の成り立ちから、生物学、地質学、そして思い出の潟分校では、教育が縦の線、横の線で繋がっているということを学べて非常に良いと思いました。

門脇市長 はい。坂本委員、お願いします。

坂本委員 私は、クニマスに関しても田沢湖の歴史に関しても、にわか知識しかなくて、そういう目で見ただけの田沢湖クニマス未来館についてお話させていただきますが、この前見させていただいて、非常に読む物が非常に多くて、一周するのに大変時間が掛かります。読めば読むほど興味があるし、初めて聞いた言葉なんかは、頭に中々入ってこないので何回も読み直して、そうやっている内に、中学生がどんどん来て流されてまた行かなきゃなっ

て、そういう感想を持って帰ってきました。ですから、一人一人が読む時間を取るには、もうちょっとスペースに余裕が欲しいなという感じを受けたのと、あの建物を学習の場と捉えるか観光と捉えるかだと思うのですが、リピーターを増やすには、今はオープンしたということで話題性がありますけれども、何か特別な点とか、行くたびに発見があるということを今後考えていかないと、訪れる人の足を遠のけるという懸念もあるのではないかなと思いました。ただ、ロケーションも本当に素晴らしいので、天気の良い日は、あのテラスに出てのんびりしたいなというのは市長と同じ考えなのですからけれども。どんどん活用していける、市民が何度も足を運べる場になって欲しいと思いました。

門脇市長 本当そうなのです。あそこでコーヒーとか飲んだりできればいいと思うのですよね。

坂本委員 できないのでしょうか。

門脇市長 いや、ハートハーブさんの方で営業権があるので、できるのではないかという話もあります。ちょっと椅子とか出して、すごくいいですよ。

熊谷教育長 砂浜を整備して利用して何かやるとかもいいですね。今、みんな体験が多いですよ。学習だけでも、リピーターを増やすためには、もう1つ何かあればいいですね。

門脇市長 アクティビティでカヤックの発着点を田沢湖クニマス未来館にしようかという話もあります。色々モンベルさんと考えているところです。

坂本委員 これから色んなところと繋がりを持って増やしていけると

いいですね。それこそ、市民からアイデアを募っても良いと思いますし。

門脇市長

湖側から田沢湖クニマス未来館を見せるという方法を考えましようという話もしております。それをカヤックでという話もあるようでした。それから、日本ペンクラブの皆さん、西木正明先生がペンクラブの環境委員会というのがあるみたいで、その方々とネットワークを組みましようということで、間もなく西木先生がその関係の先生方をお連れするかという話です。中坊先生は、開館したら減退していただくだけの館というイメージでは絶対ダメだということを前からずっとおっしゃっていますので、特別展を定期的で開催してくださるということです。応援の方々が、市民の方々も含めて非常に多いネットワークがあるみたいですので、そういう人たちとも一緒にやっていきたいと思っています。特別展だけに限らず、そこで実験なんかもやりたいという話もありますので。

河原田教育委員会委員長職務代理者

前に話したことがあるのですがけれども、田沢湖のこの辺が、土器、石器の中で黒曜石が見つかったところなのです。石器の原材料として、多分この辺に他から持ってきていたと言われていた物が、田沢湖にも現存の原料があるということで、そういうのもちよっと取り入れてみたらいいんじゃないかなと。

門脇市長

その話はですね、次第5のその他でちょっと話したいことがありました。

そういうことで、思い出の潟分校と田沢湖クニマス未来館の活用について、何とか皆さま方からご理解いただきながら今後も続けていきたいと思っています。

安部教育委員会委員長

私から1つだけよろしいでしょうか。

門脇市長 どうぞ。

安部教育委員 実は、潟分校に校歌があるのです。潟分校の体育館に貼られて
会委員長 います。生保内小学校の校歌っていうのは、藤原相之助とい
う河北新報社の編集長をやった旧田沢湖町出身の偉人がいる
のですけれども、生保内の人みんな校歌は知っているけれど
も、藤原相之助って何者っていうのは、ほとんどの人が知らない
のです。そういう郷土の偉人に光を当てるのが私たちの役割だ
ということで、今週日曜日に「田沢湖歴史再発見塾」というも
のをやるのです。そのついでに発見したのが、潟分校の校歌も
藤原相之助が作詞しているということです。ところが、潟分校
にある校歌には、作詞者も作曲者も名前が書かれていないと。
そこで、校歌の横とか下に「作詞 藤原相之助」と書いて欲しい
のです。作曲まではちょっと分からないのですけれども、作
詞は、藤原相之助が昭和19年にしています。生保内小学校の
校歌は、いつ作詞したかわからないし、いつ校歌に認定したか
もわかりません。昭和17年頃には歌っていたと言われていま
す。いずれ作詞者は、藤原相之助だということは分かっています。

門脇市長 それを表記するということですね。

高橋教育次長 今委員長が言っていたのを、その人物のことを記して貼った
兼スポーツ振 方がいいのではないのでしょうか。
興課長

安部教育委員 それはいいですね。

会委員長

門脇市長 そうすれば、委員長に原稿を作ってもらって、それをパネル
にするということにしましょう。

安部教育委員 わかりました。そうすれば、原案を私が作ります。

会委員長
門脇市長

はい。協議案件（3）は、現状報告です。曳山公開展示施設の整備についてということで、本来、文化財、教育委員会の議論を最優先するべきではないかという思いを十分持っていないながらも、議会の対応ということも色々あって、観光課の方で先に進めさせていただいているという案件なのです。ちょっと説明させてもらいますけれども、曳山公開展示施設準備検討委員会について、第1回目が6月15日、第2回目が6月30日に開催しております。皆さま方から本当にたくさんの意見をいただいております。世界遺産登録ということを何とかこれをきっかけ、糸口にしてという思いで、曳山公開展示施設準備検討委員会というものを設置させていただきました。第1回目と第2回目で、ほぼ方向付けが見えてきているというところを皆さまに報告した方が良いという思いで、今日少しお時間をいただきますけれども。今野則夫さんという方が会長さんです。保存会の会長さんが、この曳山公開展示施設準備検討委員会の会長さんをお引き受けいただいております。その他には、観光協会さんであったり、商工会さんであったり、張番協議会さんであったり、各種団体の方々が委員としてご出席いただいている形になります。今までの2回のお話の前提としては、実は、鹿角の花輪ばやしもそうです。あれはもう山車も展示されておりますし、土崎の曳山行事については、まもなく竣工になるというような進展があります。

富木文化財課
長

竣工します。土崎まちづくり拠点施設ということで、市民センターと空襲展示ホールと土崎港ばやしの展示施設を併せたのを、市民センターの中に造るということで、去年から工事を行ってまいりまして今年竣工式を行います。

門脇市長

はい。そこで、既存の施設のリノベーションが一番時間的には早いだろうという考え方で、曳山公開展示施設準備検討委員

会を開催していただいた前提としては、何とか今ある施設の活用ということで、それを改修するとか増築するとかということで、考えて欲しいというお話をして議論に入っていたいております。最初は、色んな場所の提案がありました。例えば、今北都銀行さんは活用していない角館支店の跡地はどうだとか、五井家の蔵は大きくていいよという話とか、西宮家、外町交流広場周辺はどうかとか色んな話が出ております。第2回目が終わった段階で、ほぼ終局されているような状況を担当の方からお聞きしたのでお話をさせていただくと、色んなご議論はあったのだけれども、今の外町交流広場の後の広場ってステージがあったりちょっとした小屋があったりするところですけども、あそこに最低でも1台は曳山を入れて、できれば置山を少し表現したいということで、高さのあるものを建てたいという話で、第2回目の現状というのは、そういうところに終局しそうだという話です。西宮家の米蔵を改修して外町交流広場の方に少し延ばしてきて、米蔵でお買い物もできるし、曳山展示のところまで到達できるというような考え方はどうかとか、というところの話がこの後でできそうです。今なぜこの話をしているかということ、本来であれば、文化財ということで教育委員会の所掌とする分野です。ユネスコ無形文化遺産に登録になったけれども、どういうふうな経緯があってどういうふうな歴史的な文化財的な背景があってということが、今のところ観光課で進めているような形になっており、それはスピード感の話もあるし関係者の方々が観光セクションの方が多かったのも、そういう形になっているのですけれども、是非、仙北市総合教育会議という場面を活用し、教育委員会の方々に情報の共有をお願いしたいということで、お話させていただいたという状況です。

富木文化財課
長

曳山公開展示施設準備検討委員会の委員ですけれども、角館お祭り保存会から3名、今野会長と中村副会長、兼務で安藤副

会長さんが観光協会も兼ねておりますけれども出席しております。張番協議会、曳山責任者会議という若者当番丁内会議がありまして、そこからも代表者が2名。観光協会から安藤さんと石橋さんが出席しております。商工会の代表ということで堺会長、村田事務局長。事務局ということで、観光協会の青山事務局長と観光商工部長、観光商工課長と私と職員。市長と教育長が委員となっている形で会議を開かせていただいております。第2回目の開催の段階で、とりあえず施設ができる前に、今年のお祭りの時にお客様にPRするために、6月補正でその予算をとりましたので、今の外町交流広場の後のスペースに、中央通りさんが一昨年まで使っていた曳山を町の方に寄贈していただけるということで、それを展示するというにしました。曳山会館ができた際には、そのまま展示するような形で使えばいいなということで、会議の方で報告を受けています。

門脇市長

ですね。それが今年のお祭りの対応です。この後のスケジュールですけれども、この曳山公開展示施設準備検討委員会の方のご議論が第3回目、4回目くらいで終局するという想定的基础上、12月議会では、リノベーションにするにしても増築するにしても基本設計が必要ですので、基本設計の予算を議会の方に提案させていただいて、同時進行で進めていただくこともあると思いますけれども、できれば、来年度中に曳山会館等の展示施設を実現したいというようなスケジュールですので、必要な場面でまたご議論いただきたいというふうに思っております。これについて、何かご意見等あれば。

委員

(「賛成です。」という声あり)

門脇市長

ありがとうございます。そうすれば、そのようにさせていただきます。

そういうことで、協議案件3つ全て、皆さま方と協議させていただきました。どうか、よろしくご配慮の程お願いします。

次第5のその他ですけれども、先程河原田委員が黒曜石の話をしていただきましたけれども、この9月議会に、前の田沢湖郷土史料館の所蔵物、田沢湖交流センターに入っている所蔵物等をしっかりと展示する施設として、現在、JR田沢湖駅の2階にアイリスと玉川ダムの展示室がありますけれども、そこをクローズして、そちらの方に展示するというような話をしています。土器、石器、田沢湖の歴史自体について、しっかりと皆さま方にお伝えしたいという思いで、今回予算を提案させていただくのですけれども、その提案の仕方というのは、展示委託の政策に関する一千万円弱くらいの金額になると思います。先程お話した黒曜石も展示したい、できれば北投石も展示したいというふうな話もあります。さらに言うと、風をテーマにした生保内節もそこに行けば流れているとか、田沢湖としての風土感というような積極的なのがあればいいですね。できれば、ドローンの練習場もあるので、過去の石器から始まってドローンまでいくと、この科学の進歩がここで分かるとか、そういう提案を一緒にいただきながら、展示作業に入るという話になっています。積極的に関わっていきながら、何とか皆さま方からご協力いただきたいなと思います。

安部教育委員
会委員長
門脇市長

とても素晴らしいと思います。是非、その方向で。

今まさに、色んな建物、機能の見直しの中で色んな事業が進み始めているということです。是非、教育委員の皆さまにも、色んな案を出していただければありがたいなと思います。

その他として、皆さま方から何かありませんでしょうか。

委員

(「特にありません。」の声あり)

門脇市長

まだ実は、中央公民館の設置等についてということもあるのですけれども、これは前から話ししている内容です。今、市議会の方からの提案として、新しく造る角館庁舎のボリュームに関係するのですけれども、今西木庁舎にある農林部は、西木庁舎にそのまま残して欲しいという提案が1つ。それから、角館庁舎を建てる時には、今ある健康管理センターを活用して欲しいと。この2つの提案をいただいています。市としては、これまでの議論の中では、健康管理センターのスペースは、もったいないところがたくさんあるので、全部を潰してそこに建てる訳ではありません、というようなお話しはしてあります。ただ、農林部がそこにそのまま残っているということに関しては、自分は、今までの基本構想の考え方でいくと、できるだけ事業部を1つに集めて、コストダウンして機動力を集中したいということをお話しているのです。角館庁舎に一元化したいという話を今回の議会でもさせてもらおうと思います。ですがそれに対して、市議会のおそらく多数派になると思いますが、それだと要望を何も聞いていないのではないかという話になって、次の様々な、例えば、設計業務とかの予算はもらったのですけれども、その後の事業進行にブレーキをかけることになるだろうということは、認識しています。何でこの話をしているかというと、中央公民館の設置は、前回も教育委員会の皆さま方とご議論させていただいて、西木庁舎に中央公民館を実現しようというお話をいただいているのですけれども、その後、その議論の後に何か変化はあったのでしょうかということをお話と話し合ったためです。

熊谷教育長

中央公民館については、あの話の状態のままです。

門脇市長

そうすれば、中央公民館の実現は、今までの社会教育の議論の中で重要だと位置付けられているものですので、それも実現したいということで、当初のとおりの方針にさせていただく

ということにします。中央公民館の設置の考え方の方向性としては、従前どおりということにさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから、総合体育館の話は、また後の場面になると思います。

最後に何か、皆さんからありませんか。

安部教育委員会委員長 特にないのですけれども、今日市長の話を聞いて、非常にロマンに満ちた文化行政が、それができるかできないかは分からないですけれども、そういう方向で色んな夢をたくさん持っているということが非常に強く印象に残りまして、是非ともこれは実現して欲しいと思いました。

門脇市長 大変遅くなってしまって申し訳ありません。これで、今日の仙北市総合教育会議を終わります。ご苦労様でした。

(午後5時00分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会委員長職務代理者

仙北市教育委員会委員